



本町農業の将来像語る 行政と農家ら意見交換

町農業委員会（鈴木努会長）主催の「盛岡広域振興局・町・農業者との意見交換会」は1月16日、グリーンテージで開かれ、農業者や行政、農協など30人が出席し、本町農業の将来像について活発な意見交換が行われました。

冒頭で鈴木重男町長が「町農業の将来あるべき姿」と題して講話。時代に合った経営を進め、新たな事業に果敢に挑戦していく姿勢が大事と述べました。

意見交換会で農家から規模拡大や6次産業化への投資に対する不安の声が上がると、杉原永康盛岡広域振興局長は「諦めたら終わり。国や県を動かすよう、やる気を持って農家自らどんどん提案してほしい」と激励しました。

現状と将来の展望について語る農業後継者の皆さん



寒さに負けず元気よく 酪農体験ホームステイ

第14回くずまき高原牧場スノーワンダーランド（1月5日～18日）に参加している県内外の小中学生26人は、1月10日から12日までの3日間、町内8戸の酪農家にホームステイし酪農家の生活を実体験しました。

村澤欣一さん（山岸）の牧場には、吉岡元誠君（東京都八雲小5年）、佐々木陸君（宮古市津軽石小5年）、関知諒君（花巻市南城小4年）の3人がホームステイ。牛舎内の掃除や牛への餌やりなど、厳しい寒さの中で元気よく作業をこなしました。佐々木陸君は「初めての体験でいろいろ大変でしたが、牛乳ができるまでの苦労がよく分かりました」と笑顔を見せました。

酪農家の指導を受けながら3人で力を合わせて牛に餌やりを行う子どもたち

実践！エコクッキング 冬野菜丸ごと使い切る

町公民館主催のもったいない講座・エコクッキングは1月26日、保健センターで行われ、6人の参加者は小松菜やキャベツ、白菜などの冬野菜を使った5品の調理に挑戦しました。

調理のポイントは、旬の食材を丸ごと使い切り、材料費や光熱水費を最小限に抑えること。参加者は、栄養士から説明を受けながら熱心に取り組んでいました。

前原貞子さん（五日市）は「オープンを使わず簡単にできるビスケットケーキを孫にも作ってあげたい」と笑顔で感想を話しました。



栄養士の指導の下、小松菜チャーハンを調理する参加者⑤ 完成した5品の料理

五小児童が保育園訪問 歯磨き指導でふれあう

五日市小学校（小島正明校長・児童33人）の保健委員とボランティアの児童6人は1月9日、五日市保育園（畑中節代園長・園児16人）を訪問し、歯磨きの大切さを教える「ピカリン教室」を開きました。この教室は「人に伝える力」や「優しく接する心」を養うことを目的に、一昨年夏と冬の年2回行われています。

歯ブラシの持ち方や磨く手順など模型や図を使い説明した後、園児一人一人に歯磨き指導を行いました。保健委員長の久保帆夏さん（6年）は「園児みんながしっかり話を聞いて取り組んでくれた」と充実した表情を見せました。



「ピカリン教室」で園児一人一人に丁寧に歯磨き指導を行う五日市小学校の児童

冬の病気やけがに注意 田子自治会で健康教室

田子自治会（村木功会長・会員196人）主催の健康教室は1月19日、田子ふれあいセンターで開かれ、会員約50人が出席し、冬期間に注意しなければならない病気やけがについて理解を深めました。

葛巻病院の佐々木崇理事が「健康いきいき葛巻町26～冬にご注意を～」と題して講演。インフルエンザや脳卒中、骨粗しょう症による骨折など、症状や予防方法についてスライドを使って詳しく説明しました。

村木会長は「健康に留意しながら、今年も自治会みんなが一致団結して活動していきましょう」と呼びかけました。



講演前に佐々木理事の指導の下、背伸び運動をする参加者の皆さん



5人で力を合わせて難問・珍問に挑戦する星野農家組合チームの皆さん

目指せくずまき雑学王 チーム対抗選手権開催

第7回チーム対抗ものしり雑学王選手権は1月23日、主催のグリーンテージで開かれ、20チーム100人の参加者が町の雑学王を目指し、50問の問題に挑戦しました。

葛巻高校の応援歌を流し「第何応援歌でしょう？」など、音楽や映像を使った問題が今回から取り入れられ、趣向を凝らした難問・珍問に参加者は悪戦苦闘していました。

【結果】優勝＝北王（36点）、準優勝＝くずまきワイン（36点）、第3位＝森林組合青年部（32点）※同点の場合は、じゃんけんで順位を決定